

令和7年度 教育計画(シラバス)

【1年】



令和7年度入学生 教育課程表（R7__1 年次）

A表

		講座 番号	科目名	区分	科目 区分	種 別	1 年		農学科						畜産学科			
							単位	時間	作物	野菜	果樹	花	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚
教 育 科 目	全 学 科 共 通	301	英会話Ⅰ	前	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		302	英語特別講義Ⅰ	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		303	保健・体育Ⅰ	前	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		304	農業基礎	前	選択必修	講義	1	15	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
		305	数学基礎	前	選択必修	講義	1	15										
		306	実用数学	前	選択必修	講義	1	15										
		307	くらしと科学	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		308	農業と化学	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		309	小論文演習Ⅰ	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		310	くらしと生活	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		311	情報処理基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		312	情報処理演習	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		313	農業科教育法	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専 門 科 目	全 学 科 共 通・ 専 攻 別	314	総合実習	前	必修	実習	3	90	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		315	自主企画研修	後	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		316	アグリビジネスⅠ	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		317	インターンシップⅠ	前	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		318	農業経営	後	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		319	農業生産工程管理Ⅰ	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		320	農業機械基礎	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		321	大型特殊機械演習（大特）	全	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		322	農業簿記基礎	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		323	農業簿記演習	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		324	マーケティングⅠ	全	履・選	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		325	農業機械	後	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		326	大型機械操作演習（けん引）	全	選択	実技	1	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		327	ドローン操作基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		328	ドローン操作演習	特	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		329	会社経営Ⅰ	後	必・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	◎	◎	▲	▲	▲
		330	食品の機能性Ⅰ	後	履・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		331	食品衛生／食品表示	全	履・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
専 門 科 目（ 農 学）	学 科 共 通・ 専 攻 別	332	農業概論	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
		333	スマート農業基礎（農）	全	必修	演習	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
		334	土壌肥料基礎	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		335	農学専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	9	270	◎	◎	◎	◎	◎					
		336	農学専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎					
		337	有機農業概論	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		338	GAP演習	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		339	作物の栽培管理	全	必修	講義	1	15	◎									
		340	施設野菜の栽培管理	全	必修	講義	1	15		◎								
		341	果樹の栽培管理	全	必修	講義	1	15			◎							
		342	花きの栽培管理	全	必修	講義	1	15				◎						
		343	茶の栽培管理	全	必修	講義	1	15					◎					
		344	先進農業事例研究	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		345	茶の加工	全	必修	演習	1	15					◎					
		346	農業気象学	全	必修	講義	2	30	◎	◎	◎	◎	◎					
		347	病虫害基礎	全	必修	講義	2	30	◎	◎	◎	◎	◎					
専 門 科 目（ 畜 産）	学 科 共 通・ 専 攻 別	348	畜産概論	前	必修	講義	1	15							◎	◎	◎	◎
		349	スマート農業基礎（畜）	全	必修	講義	1	15							◎	◎	◎	◎
		350	畜産専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	9	270								◎	◎	◎
		351	畜産専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	5	150								◎	◎	◎
		352	家畜の栄養と飼料	全	必修	講義	2	30								◎	◎	◎
		353	家畜の飼養管理	前	必修	講義	1	15								◎	◎	◎
		354	家畜の育種と繁殖Ⅰ	全	必修	講義	2	30								◎	◎	◎
		355	人工授精演習	全	履修	演習	1	15								○	○	○
		356	GAP演習Ⅰ（畜）	前	履修	演習	1	15								○	○	
専 門 科 目（ フ ー ド）	専 攻 別	357	フードビジネス専攻実習Ⅰ	後	選択	演習	1	15							▲	▲		
		358	フードビジネス専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	7	210						◎	◎			
		359	フードビジネス専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	5	150						◎	◎			
		360	食品製造（理論）	後	必修	演習	1	15						◎	◎			
		361	食品化学Ⅰ	後	履修	講義	1	15						○	○			
		362	食品製造実習Ⅰ	後	必修	実習	1	30						◎	◎			
		363	フードビジネスⅠ	後	必修	講義	1	15						◎	◎			
		364	微生物活用Ⅰ	後	履修	演習	1	15						○	○			

※◎印は必修、○印は履修、▲印は選択、□は選択必修

令和7年度 授業計画書[シラバス]

科目名	301	英会話I		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	基礎的な英語力向上を図るため、教材、コミュニケーションを通した学習を行い、英会話能力、技能を養う。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	国内外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる。								
使用教材	Nice to meet you								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	インタビューテスト、復習テスト、自己紹介スピーチにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						日付	備 考	
1	Class Guidance						4月25日(金)	A:2限目、B:3限目	
2	Unit1 Classroom English: Getting to know Your Classmate						5月2日(金)	A:2限目、B:3限目	
3	Unit1 Reading1: The Culture of the English Classroom						5月9日(金)	A:2限目、B:3限目	
4	Unit2 What's your name? Example Conversations						5月12日(月)	A:2限目、B:3限目	
5	Unit2 What's your name? Speaking Practice						5月16日(金)	A:2限目、B:3限目	
6	Unit2 Reading2: The Magic Words						5月19日(月)	A:2限目、B:3限目	
7	Unit3 Where are you from? Questions and Answers						5月23日(金)	A:2限目、B:3限目	
8	Unit3 Where are you from? Example Conversations						6月6日(金)	A:2限目、B:3限目	
9	Unit3 Reading 3 Techniques for Speaking Naturally						6月13日(金)	A:2限目、B:3限目	
10	Unit4 What do you do? Ex. Conversations						6月20日(金)	A:2限目、B:3限目	
11	Unit4 What do you do? Speaking Practice						6月27日(金)	A:2限目、B:3限目	
12	Unit4 Reading 4 Using English outside the Classroom						7月4日(金)	A:2限目、B:3限目	
13	Writing Speech: Self-introduction / Unit 1-4 学習のまとめ						7月11日(金)	A:2限目、B:3限目	
14	Self-Introduction Speech						7月18日(金)	A:2限目、B:3限目	
15	復習・Interview test / Review test						7月25日(金)	復習・試験	
授業時間外に必要な学修	毎回の授業の復習を付属の音源を使って行う。また、次週の内容を音源を聴き予習する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	302	英語特別講義Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	英文読解、和文英訳、時事英語①（自動詞）（仮）						1	夏期休業中に実施 （開催日時は、講師決定後に確定）	
2	英文読解、和文英訳、時事英語②（他動詞）（仮）						1		
3	英文読解、和文英訳、時事英語③（品詞）（仮）						1		
4	英文読解、和文英訳、時事英語④（3文型）（仮）						1		
5	英文読解、和文英訳、時事英語⑤（分詞）（仮）						1		
6	英文読解、和文英訳、時事英語⑥（前置詞）（仮）						1		
7	英文読解、和文英訳、時事英語⑦（接続詞）（仮）						1		
8	英文読解、和文英訳、時事英語⑧（仮定法）（仮）						1		
9	英文読解、和文英訳、時事英語⑨（関係詞）（仮）						1		
10	英文読解、和文英訳、時事英語⑩（時制）（仮）						1		
11	英文読解、和文英訳、時事英語⑪（英文読解のポイント）（仮）						1		
12	英文読解、和文英訳、時事英語⑫（和文英訳のポイント）（仮）						1		
13	英文読解、和文英訳、時事英語⑬（時事英語の読み方）（仮）						1		
14	英文読解、和文英訳、時事英語⑭（文章読解）（仮）						1		
15	テストに向けた復習、試験、解説						1		
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	303	保健・体育Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	前
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。								
講師名	農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。 演習状況も知識の一部として勘案する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
15	生涯を通じる健康についての講話						1	7/9(水)3限目(仮)	
1	体づくり運動と礼法						1	9/2(火)2限目	
2	■各競技に分かれて、活動する ①球技 【バスケットボール】【サッカー】 パス・ドリブル・シュートなど基本的な技術を習得 【バレーボール】 オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブなど基本的な技術を習得 【バトミントン】 基本動作・各種ストローク・サービス・シャトル操作の習得 【卓球】【テニス】 打ち方やフォーム、構え方など基本的技術を修得 【野球】 打つ・投げる・走るの基本的な動作を習得 ②陸上競技 【短距離、長距離】 疾走フォームやスタート等の基本的な動作を修得、タイム計測						1	9/2(火)3限目	
3							1	9/4(木)2限目	
4							1	9/4(木)3限目	
5							1	9/5(金)2限目	
6							1	9/5(金)3限目	
7							1	9/8(月)2限目	
8							1	9/8(月)3限目	
9							1	9/9(火)2限目	
10							1	9/9(火)3限目	
11							試合形式による各スポーツの実践		
12	試合形式による各スポーツの実践						1	9/12(木)	
13	試合形式による各スポーツの実践						1	9/13(金)	
14	試合形式による各スポーツの実践						1	9/13(金)	
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	304 選択A	農業基礎		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～7 月
科目の概要	農業高校以外の高校から入学している学生に、県内で栽培される作物及び畜産の基礎について学習する。								
講師名	農大職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めると共に、科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。								
使用教材	テキスト:宮崎の農業（高鍋農業高校）、農業の基礎、作物栽培の基礎、野菜栽培の基礎（農文教）、他参考資料								
成績評価	方法	知識（テスト）		知識（復習プリント）		レポート		取組評価	
	基準	作問は100点満点、評価は80点とする。		評価10点 取組状況を5段階に分けて評価 A：10点 B：8点 C：6点 D：4点 E：2点		評価5点 ノート、レポートを5段階で評価 A：5点 B：4点 C：3点 D：2点 E：1点		講義中の取組・態度で評価する。 良い：最大+5点 悪い：最大-5点	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎の農業について（概要）						1	4月22日（火）2限目	
2	宮崎の農産物（園芸）について						1	4月24日（木）2限目	
3	宮崎の農産物（畜産）について						1	5月13日（火）2限目	
4	稲作栽培の基礎について						1	5月20日（火）2限目	
5	野菜栽培の基礎について						1	5月22日（木）2限目	
6	野菜栽培の基礎について						1	6月3日（火）2限目	
7	花き栽培の基礎について						1	6月10日（火）2限目	
8	果樹栽培の基礎について						1	6月17日（火）2限目	
9	畜産の基礎（肉用牛、酪農）について						1	6月24日（火）2限目	
10	畜産の基礎（養豚）について						1	6月26日（木）2限目	
11	畜産の基礎（養鶏）について						1	7月1日（火）2限目	
12	食品製造の基礎について						1	7月8日（火）2限目	
13	フードビジネスの基礎について						1	7月15日（火）2限目	
14	農業機械の基礎について						1	7月22日（火）2限目	
15	宮崎の農業の課題と展望、振り返り、テスト						1	7月29日（火）2限目	
							15		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	総合評価で60点以下の場合は、9月に再試験を行う。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

令和7年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	305 選択A	数学基礎		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	数学における基本的な概念や原理・原則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を再度培う。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等 による授業科目		○
到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識すると共に、それらを活用する態度を育てる。								
使用教材	プリント								
成績評価	方法	知識（テスト）			出席率（10点）		取組（態度等）		
	基準	知識を問う試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	数と式①（式の計算：単項式の乗法、多項式の乗法）						1	4月22日（火）2限目	
2	数と式②（実数：根号を含む式の計算）						1	4月24日（木）2限目	
3	数と式③（1次不等式：1次不等式とその解き方、連立不等式）、確認テスト						1	5月13日（火）2限目	
4	図形と計量①（三角比の応用）						1	5月20日（火）2限目	
5	図形と計量②（三角形への応用：正弦定理、余弦定理）						1	5月22日（木）2限目	
6	図形と計量③（三角形への応用：三角形の面積）、確認テスト						1	6月3日（火）2限目	
7	二次関数①（関数とグラフ）						1	6月10日（火）2限目	
8	二次関数②（二次関数の値の変化）、確認テスト						1	6月17日（火）2限目	
9	データの分析①（データの整理）						1	6月24日（火）2限目	
10	データの分析②（データの代表値）						1	6月26日（木）2限目	
11	データの分析③（データの散らばりと四分位数）						1	7月1日（火）2限目	
12	データの分析④（分散、標準偏差）						1	7月8日（火）2限目	
13	データの分析⑤（2つの変量の間の関係）						1	7月15日（火）2限目	
14	テストに向けた復習（式の計算・実数・1次不等式等）						1	7月22日（火）2限目	
15	テストに向けた復習（三角比・2次関数等）・テスト						1	7月29日（火）2限目	
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	306 選択A	実用数学		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	数学の基本概念を理解し、原理・原則を通していろいろな事象を数学的に考察し、表現する能力を高める。 また、実用的な問題を解決する能力を養う。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等 による授業科目		○
到達目標	数の計算・多項式の計算や割り算および割合・応用問題を解決する基礎的な知識の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を養う。その中で、数学の良さを認識しそれらを活用する態度を育てる。								
使用教材	プリント								
成績評価	方法	知識（テスト）（70点）		小テスト（10点）		出席率（10点）		取組（態度等 10点）	
	基準	知識を問う試験を実施し、理解度を評価する。		数回にわたり小テストを実施し、理解度を確認する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により10点を上限として減ずる。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	数の成り立ち（10進数・2進数）						1	4月22日（火）2限目	
2	数の計算（整数の四則演算・分数計算・繁分数式の計算）						1	4月24日（木）2限目	
3	割合の計算（割合の基礎・濃度・仕事算）、小テスト						1	5月13日（火）2限目	
4	多項式の計算（指数法則・乗法公式）						1	5月20日（火）2限目	
5	多項式の計算（乗法公式・因数分解）						1	5月22日（木）2限目	
6	多項式の計算（多項式の割り算・分数式の計算）、小テスト						1	6月3日（火）2限目	
7	無理数の計算（無理数の計算・分数式の計算）						1	6月10日（火）2限目	
8	方程式（一次方程式・二次方程式）						1	6月17日（火）2限目	
9	連立方程式（一次連立方程式・二次連立方程式）、小テスト						1	6月24日（火）2限目	
10	不等式①（一次不等式・二次不等式）						1	6月26日（木）2限目	
11	不等式②（一次不等式・二次不等式）						1	7月1日（火）2限目	
12	応用問題①（濃度問題・仕事算問題）、小テスト						1	7月8日（火）2限目	
13	応用問題②（道のり問題など）						1	7月15日（火）2限目	
14	復習プリントでの学習（10進数・2進数・整数の四則演算・分数計算・繁分数式の計算等）						1	7月22日（火）2限目	
15	復習プリントでの学習（方程式・不等式・濃度問題等）・テスト						1	7月29日（火）2限目	
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	307	くらしと科学 選択B		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	7～8月
科目の概要	農業と科学の結びつきは、農業の発展と維持可能性を支える重要な要素である。この化学や物理の活用術を理解すると共に関係法令などにも理解を深める。また危険物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、燃焼等での活用する能力と態度を育てる。								
講師名	農大職員							実務経験のある 教員等による授 業科目	
使用教材	向学院 乙4類危険物取扱者受験教科書、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	単元毎に試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により 20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	基礎的な物理学						1		
2	基礎的な化学						1		
3	燃焼の基本知識①						1		
4	燃焼の基本知識②						1		
5	消化に関する基礎知識						1		
6	第4類危険物以外の危険物概論						1		
7	第4類危険物以外の危険物概論						1		
8	第4類危険物の概論①						1		
9	第4類危険物の概論②						1		
10	消防法①						1		
11	消防法②						1		
12	危険物の規制に関する政令①						1		
13	危険物の規制に関する政令②						1		
14	危険物の規制に関する規制						1		
15	危険物の規制に関する規制、試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	308	農業と化学 選択B		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	・ 毒物・劇物の取扱についての知識を深め、毒物劇物取扱責任者試験の合格レベルまで到達する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・ 毒物劇物取扱責任者資格取得レベルを目指す。								
使用教材	・ 第3版 毒物劇物取扱者 合格教本（技術評論社） ・ 毒物劇物取扱者オリジナル問題集（技術評論社）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	毒物劇物取扱責任者試験を受験し、資格取得を目指す。 試験結果から理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物未提出、試験未受験等により20点を上限として減ずる。 試験未受験 ▲20	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	毒物及び劇物に関する法規（目的と定義、禁止規定、登録等）						1		
2	毒物及び劇物に関する法規（取扱・表示、譲渡手続と交付制限）						1		
3	毒物及び劇物に関する法規（廃棄方法、運搬・事故等の措置）						1	単元試験を実施	
4	基礎化学（物質の三態、原子量と分子量、原子構造と配置）						1		
5	基礎化学（物質量、溶液の濃度計算）						1		
6	基礎化学（化学結合、化学式と化学反応式、熱化学方程式）						1		
7	基礎化学（酸と塩基と中和、酸化と還元、電気分解等）						1	単元試験を実施	
8	毒物劇物の性状						1		
9	毒物劇物の貯蔵法						1		
10	毒物劇物の廃棄方法						1	単元試験を実施	
11	漏洩時の応急措置						1		
12	毒性・解毒法						1		
13	鑑別法						1	単元試験を実施	
14	毒物及び劇物の鑑別・貯蔵・取扱方法の実地						1		
15	毒物及び劇物取扱の法令に関すること						1	単元試験を実施	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	特になし								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	309 選択C	小論文演習Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～12月
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、小論文対策								
講師名	文章表現・スピーチ・小論文対策						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける ・進学に必要な小論文の書き方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考 （日程案①の場合）		
1	小論文とは					1	11月4日（火）2限目		
2	小論文を書くときのこつ					1	11月4日（火）3限目		
3	文章表現（自己PR）					1	11月11日（火）2限目		
4	スピーチ（自己PR）					1	11月11日（火）3限目		
5	プロットの立て方					1	11月18日（火）2限目		
6	一般的小論文の最近の傾向					1	11月18日（火）3限目		
7	文章表現（作文型小論文）					1	11月19日（水）2限目		
8	スピーチ（作文型小論文）					1	11月19日（水）3限目		
9	小論文対策（農業分野①6次産業化）					1	11月25日（火）2限目		
10	小論文対策（農業分野②スマート農業）					1	11月25日（火）3限目		
11	小論文対策（会社・法人等の出題傾向・対策）					1	12月2日（火）2限目		
12	敬語の使い方					1	12月2日（火）3限目		
13	メールの書き方					1	12月9日（火）2限目		
14	面接のこつ					1	12月9日（火）3限目		
15	講義の復習（文章表現・小論文対策等）・面接試験					1	12月17日（水）2限目		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	310 選択C	くらしと生活		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～12月
科目の概要	就職試験対策や卒業後の社会生活に向けて、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	外部講師1名（社会一般常識）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける								
使用教材	講師が準備した資料、SPIベーシック								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考 （日程案①の場合）		
1	就職試験対策一般常識①（SPIの説明と学習方法、言語分野①対義語）					1	11月4日（火）2限目		
2	就職試験対策一般常識②（言語分野②2語の関係）					1	11月4日（火）3限目		
3	就職試験対策一般常識③（言語分野③漢字・文章理解）					1	11月11日（火）2限目		
4	就職試験対策一般常識④（「分数」と「小数」の計算）					1	11月11日（火）3限目		
5	就職試験対策一般常識⑤（数の計算、比・割合の計算）					1	11月18日（火）2限目		
6	就職試験対策一般常識⑥（推論①：順序関係）					1	11月18日（火）3限目		
7	就職試験対策一般常識⑦（推論②：正誤の判断）					1	11月19日（水）2限目		
8	就職試験対策一般常識⑧（時間の範囲）					1	11月19日（水）3限目		
9	就職試験対策一般常識⑨（損益算）					1	11月25日（火）2限目		
10	就職試験対策一般常識⑩（速さ・時間・距離）					1	11月25日（火）3限目		
11	就職試験対策一般常識⑪（濃度算）					1	12月2日（火）2限目		
12	就職試験対策一般常識⑫（表の読み取り）					1	12月2日（火）3限目		
13	就職試験対策一般常識⑬（確率）					1	12月9日（火）2限目		
14	就職試験対策一般常識⑭、復習（言語分野・推論等）					1	12月9日（火）3限目		
15	復習（時間の範囲・損益算等）・テスト					1	12月17日（水）2限目		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和 7 年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	311	情報処理基礎		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期	
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4 月～9 月
科目の概要	情報化社会において必要となる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理能力を修得し、今後農業に活用できる力を身に付ける									
講師名	農業大学校職員									
到達目標	日検情報処理技能検定 2 級を取得できる能力を身に付ける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を修得する。									
使用教材	日検情報処理検定問題集									
成績評価	方法	知識・技術（9 0 点）			出席率（1 0 点）		学習態度（減点）			
	基準	知識や操作技術を問う試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・無欠席……………（1. 0） ・1 回欠席……………（0. 9） ・2 ～ 3 回欠席……（0. 8） ・4 回欠席……………（0. 7） ・5 回以上……………未履修		2 0 点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容					時間	備考			
1	情報処理能力の確認（入力）及びアンケート調査 タブレット等の基本操作					1				
2	農業におけるコンピュータの活用事例					1				
3	コンピュータの操作技術					1				
4	判断文の活用術					1				
5	判断文、絶対参照、構成比率の活用術					1				
6	端数処理関数、順位付け、ソートの活用術					1				
7	グラフ作成					1				
8	表検索の活用					1				
9	表検索の応用					1				
10	多重判断文の活用					1				
11	多重判断文の応用					1				
12	論理演算子、セル証明の活用					1				
13	論理演算子、セル証明の応用					1				
14	時刻計算等					1				
15	データ整理のまとめ					1				
授業時間外に必要な学習	日検情報処理検定 1 級または、初段保持者については、マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS 試験）の資格取得に向けて、課外を行い資格取得を目指す。情報処理の検定については放課後に実施する。 夏休みの課題として、毎年実施されるヤンマー作文コンクール用の原稿を作成し、全員応募する。									
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

再試験及び補修対象の実施基準

令和 7 年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	312	情報処理演習		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期	
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10～3 月
科目の概要	情報化社会において必要となる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理能力を修得し、今後農業に活用できる力を身に付ける									
講師名	農業大学校職員									
到達目標	日検情報処理技能検定 1 級を取得できる能力を身に付ける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を修得する。									
使用教材	日検情報処理検定問題集									
成績評価	方法	知識・技術（9 0 点）			出席率（1 0 点）		学習態度（減点）			
	基準	知識や操作技術を問う試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・無欠席……………（1.0） ・1 回欠席……………（0.9） ・2 ～ 3 回欠席……（0.8） ・4 回欠席……………（0.7） ・5 回以上……………未履修		2 0 点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容					時間	備考			
1	データ整理の活用					1				
2	表検索の応用					1				
3	多重判断文の活用					1				
4	多重判断文の応用					1				
5	データーベース関数の活用					1				
6	データーベース関数の応用					1				
7	データーベース関数の応用					1				
8	文字列操作関数の活用					1				
9	文字列操作関数の応用					1				
10	特殊関数の活用、高度なグラフ作成					1				
11	データ処理の応用					1				
12	プログラミング① ■順次構造・単純な分岐構造の流れを理解し正しく動作させる 順次構造 分岐構造（if・if/else）					1				
13	プログラミング② ■順次・分岐・反復構造の流れを理解し、その構造を組み立て正しく動作 順次構造させる 分岐構造（if・if/else） 反復構造（for・while）					1				
14	プログラミング③ ■入出力の仕組み、順次・分岐・反復構造の流れを理解し、適切な構文を選択して正しく動作させる 順次構造 分岐構造（if・if/else・else if・switch） 反復構造（for・while）					1				
15	プログラミング④ ■各構造を組み合わせたアルゴリズム、データ構造や戻り値を理解し、与えられた情報を基に正しく動作させる 順次構造 分岐構造（if・if/else・else if・switch・複数条件） 反復構造（for・while）					1				
授業時間外に必要な学習										
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

授業時間外に必要な学習

再試験及び補修 対象の実施基準

令和7年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	313	農業科教育法			学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	農業教育の在り方、農業科教員としての心構え、学習内容、学習方法などについて講義する。授業の流れは、主に学習指導の過程や農業実験・実習法、プロジェクト学習法、高校農業科の授業体験、教育課程の編成、教育評価、農業科教員の服務と法令・施設・設備の管理、農業教育の展望と諸課題等を研究し、農業科教員として主体的に解決できる創造的な能力と実践的な態度を身に付け実習助手になるために必要な講義と演習を行う。									
講師名	副校長及び指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業と社会の発展を図る創造的な農業科教員としての基礎的・基本的な素養を身に付ける。又、農業専門高校や総合専門高校の農業科授業（実験・実習）で生き物を通して学ぶ農業教育の目的を実体験し、農業教育の在り方や将来の農業科教員としての心構えと資質の向上を図る。									
使用教材	高等学校学習指導要領（農業編）、農業高校で使用する農業科目の教科書、第8次宮崎県農業・農村振興長期計画									
成績評価	方法	知識（40点）			レポート（30点）		模擬授業（10点）		出席（20点）	
	基準	単元試験を実施			・大変良い 10点 ・概ね良い 8点 ・良い 6点 ・やや劣る 4点 ・劣る 2点 ・未提出 不可 ※各10点満点で評価し20点で算出		各10分間の模擬授業を実施 ・大変良い 10点 ・概ね良い 8点 ・良い 6点 ・やや劣る 4点 ・劣る 2点 ・欠席 不可		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	農業科教育法Ⅰの概要(1) 農業科教育法の意義、農業教育の本質と目的、農業の意義						1	教育副校長		
2	農業科教育法Ⅰの概要(2)－宮崎県の農業教育、農業高校の現状と課題、農業教師に求められるもの						1	教育副校長		
3	農業科教員の服務 服務と関係法令－学校教育法、産業教育手当、産業教育振興						1	総括副校長		
4	農業教育の施設・設備および管理 意義、学校農場の性格、面積、建物・設備、施設・設備						1	総括副校長		
5	教育課程の編成(1)－教育課程(カリキュラム)の意義、概念と意味						1	教務学生課課長		
6	教育課程の編成(2)－農業高等学校における教育課程の編成と年間指導計画						1	教務学生課課長		
7	学習指導要領とその変遷						1	教務学生課課長		
8	学習指導(1) 農業科における学習指導の過程と農業実験・実習法における学習指導						1	指導職員		
9	学習指導(2) 農業科におけるプロジェクト法の意義、種類、指導、計画立案						1	指導職員		
10	学習指導(3) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習 高鍋農業高校						1	参観授業、レポート		
11	学習指導(4) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習 高鍋農業高校						1	参観授業、レポート		
12	学習指導(5) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習 宮崎農業高校						1	参観授業、レポート		
13	学習指導(6) 農業科(農業実験・実習)の授業体験学習 宮崎農業高校						1	参観授業、レポート		
14	学習評価						1			
15	指導案作成と模擬授業						1			
計							15			
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	総合評価で60点以下の場合は再試験を行う。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	314	総合実習			学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～6月	
科目の概要	・各専攻品目（作物、野菜、果樹、花、茶、フード）の基本的な栽培管理技術、知識を学ぶ。									
講師名	農業大学校 指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農産物の生産技術や経営技術の基礎、フードビジネスの基礎技術を習得する。									
使用教材	講師作成資料									
成績評価	方法	知識（40点）			技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻実習時の知識の習得状況について、各職員がチェックし、評価する。			各専攻実習の取り組み及び技術習得状況について、各職員がチェックし、評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1～87	各専攻品目の栽培管理等							農業大学校指導職員		
	作物	栽培品目の確認、露地野菜の収穫・調整、水田及び畑地の管理、作物の基礎的管理（かん水、施肥、病虫害対策）					19			
	野菜	栽培品目の確認、開花期～収穫期の基礎的管理（温度管理、施肥管理、水管理、病虫害対策）					19			
	花	栽培品目の確認、収穫期の基礎的管理（採花、摘蕾、かん水、施肥、病虫害対策、出荷調整）					18			
	果樹	植栽品目の確認、草生管理、開花期～果実肥大期の基礎的管理（受粉、摘蕾、摘果、かん水、施肥、病虫害対策）					19			
	フード	フードビジネスに関する基礎知識・技術について					12			
88～90	茶	別途、茶業支場で栽培管理実習を実施（7月）					3	農業大学校指導職員 総合農業試験場 茶業支場職員		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	314	総合実習（畜産）		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～6月
科目の概要	・肉用牛、乳用牛及び豚の基本的な飼養管理技術や加工技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
回	内 容					時間	備 考		
1～48	肉用牛の飼養管理 給餌方法、繁殖管理方法、肥育管理、整理整頓・清掃方法、防疫対策					48			
49～72	乳用牛の飼養管理 搾乳技術、食品衛生管理対策、繁殖管理方法、整理整頓・清掃方法、防疫対策					24			
73～78	豚の飼養管理 農場出入りルールの確認、給餌飼料の確認、体重測定、防疫対策					6			
79～90	畜産加工品の加工・調整 食品加工における衛生対策、加工の効果、加工・調整方法					12			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	315	自主企画研修		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	10月
科目の概要	高度な栽培技術・飼育技術、最新の加工・流通・販売に関する技術及び関連する経営概要を実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人、農産物の加工・流通・販売を行う農業生産法人や一般企業の職員等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術・飼育技術や経営概要、農産物の加工・流通・販売に関する技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者や農産物の加工・流通・販売の従事者等との交流をととして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 - A（良い）2点/1日 - B（普通）1点/1日 - C（悪い）0点/1日 で採点し、0.25を乗ずる。		・提出 - 提出有り：10点 - 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 - A（良い）20点 - B（普通）10点 - C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 15日目	・研修先が立地する地域農業の概要について学ぶ。 ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・研修先の経営や業務に対する考え方や取組について学ぶ。 ・高度な栽培、飼育、加工に関する技術や販売方法について学ぶ。					90時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
16日目 ～ 20日目	・高度で実践的な栽培、飼育、加工に関する知識や技術を学ぶとともに販売方法について学ぶ。 ・講師等との意見交換をととして、経営感覚やリーダーシップを高める方法や地域づくりのビジョン構築等について情報を収集する。					30時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	316	アグリビジネスⅠ		学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6～1月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	講義ごとのレポートまたは試験により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	アグリビジネスに関する講話①(アグリビジネスとは) (仮)						2	6/18(水)2、3限目	
2	アグリビジネスに関する講話②(農業経営と目標設定) (仮)						2	7/16(水)2、3限目	
3	アグリビジネスに関する講話③(働くということ) (仮)						2	9/3(水)2、3限目	
4	アグリビジネスに関する講話④(農福連携の取組) (仮)						2	9/30(火)2、3限目	
5	アグリビジネスに関する講話⑤(女性農業経営者の取組) (仮)						2	11/5(水)2、3限目	
6	アグリビジネスに関する講話⑥(農産物の輸出について) (仮)						2	12/10(水)2、3限目	
7	アグリビジネスに関する講話①(先進農業者・経営者の取組事例) (仮)						2	1/14(水)2、3限目	
8	講義の復習・アグリビジネスレポート						1	1/14(水)6限目	
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	317	インターンシップ I		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	5月下旬
科目の概要	農業生産現場において、栽培・飼育技術や経営概要等について実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培・飼育技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い） 5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・先進農家等の農業に対する考え方や取組について学ぶ。 ・実習をとおして基本的な栽培・飼育技術について学ぶ。					18時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をとおして高度な栽培・飼育技術について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、農業経営について情報を収集する。					12時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	318	農業経営		学科名	農学科・畜産学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	農業経営の設計と管理について学習させる科目であり、農業の動向や農業経営の役割など、農業経営の現状や今日的な課題等に関心を持たせ、農業経営を実践する楽しさや意欲を醸成する。また、学習させる経営事例は地域農業やその他の産業の実態等を考慮して行う。								
講師名	総合農業試験場専門技術センター担当 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させると共に、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。								
使用教材	・農業の経営と生活（農文協） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験及びレポートにて、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		知識（90点）出席率（10点）から、講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	日本農業の発展と特徴					1	農業大学校指導職員		
2	農業生産の要素と農業経営の目標					1			
3	農業の諸要素、経営活動の成果とその捉え方					1			
4	講義の復習及び農業経営に関する最新話題等					1			
5	農業経営管理指針の解説					1			
6	農業経営の仕組み（個人経営の特徴）と経営計画の作成について					2	総合農業試験場 専門技術センター		
7									
8	経営診断の方法、経営改善の手法について （レポート）					2			
9									
10	経営管理指針の活用					1	農業大学校指導職員		
11	講義の復習及び経営改善の考え方					1			
12	本県 J A グループの組織概要、業務内容、取り組み （レポート）					2	JA宮崎中央会		
13									
14	農業関連産業の経営と成長戦略 （レポート）					2	民間企業職員		
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、必要に応じて承認を得た者は追試または再試を1回限り実施する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	319	農業生産工程管理Ⅰ (畜産)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期	
授業の方法	講義		区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・農業生産活動の持続性を確保するため、①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組を学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産GAPについて基礎的な知識を習得する。 ・GAPを理解し、実践する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	畜産GAPの基礎						1	担当講師： 農業大学校職員		
2	畜産GAPの必要性						1			
3	リスク分析の考え方						1			
4	生産工程におけるリスク分析						1			
5	農産物取り扱い工程におけるリスク分析						1			
6	労働安全のリスク分析：農業における労働安全について						1			
7	労働安全のリスク分析：実際の事故事例から学ぶ						1			
8	GAPチェックリストの解説：共通項目1～7						1			
9	GAPチェックリストの解説：共通科目8～13						1			
10	GAPチェックリストの解説：畜産専用項目						1			
11	GAPチェックリストの解説：生乳・鶏卵・飼料作専用項目						1			
12	GAP現場研修：農場の危険なところ・改善点を探す						1			
13	GAP現場研修：改善点を発表用にまとめる（班別学習）						1			
14	GAP現場研修：改善点を発表する						1			
15	畜産GAPのまとめ・振り返り						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	319	農業生産工程管理Ⅰ		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAPの基礎① 農業生産工程管理とは、GAPの定義					1	農業大学校指導職員		
2	GAPの基礎② 良い農業の実践とPDCAサイクル					1			
3	国内外のGAPを取り巻く状況					1			
4	GAPの認証と導入					1			
5	リスク分析の考え方					1			
6	生産工程におけるリスク分析					1			
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1			
8	労働安全のリスク分析					1			
9	GAPの基礎及びリスク分析の復習と試験					1			
10	MIYAZAKI－GAPチェックリストの解説① 穀物・花の適合基準の解説					1			
11	MIYAZAKI－GAPチェックリストの解説② 青果物の適合基準の解説					1			
12	MIYAZAKI－GAPチェックリストの解説③ チェックリストに基づく自己点検					1			
13	ASIA GAPチェックリストの解説① 青果物の適合基準の解説					1			
14	ASIA GAPチェックリストの解説② リスク分析の解説と改善例					1			
15	ASIA GAPチェックリストの解説③ 法令の解説と内部審査					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	320	農業機械基礎		学科名	全学科	学年	1	学期	前期
授業の方法	講義、演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月
科目の概要	草刈り機取り扱いと基礎知識の取得。運搬車の操作方法、ローダの操作方法、トラクターによるロータリー実演の習得								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	安全衛生教育、小農器具の取扱と操作、トラクター実演の習得								
使用教材	刈り払い機（講習テキスト）								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	刈り払い機に関する知識（学科）						1時間		
2	刈り払い機を使用する作業に関する知識（学科）						1時間		
3	刈り払い機の点検及び整備に関する知識（学科）						1時間		
4	振動障害及びその予防に関する知識（学科）						1時間		
5	関係法令（学科）						1時間		
6	草刈り機の作業（実技）						1時間		
7	ロータリー、ローダの構造と点検整備・運転操作（実技）						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	トラクターの運転操作・運搬車、動力噴霧器の取扱（実技）						1時間		
11	〃						1時間		
12	〃						1時間		
13	草刈り機刃の取り付け作業とメンテナンス（実技）						1時間		
14	圃場での草刈り演習（実技）						1時間		
15	〃						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	321	大型特殊機械演習		学科名	全学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5～6月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。試験に合格			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法について						1時間		
2	トラクターの運転実習(方向転換)						1時間		
3	トラクターの運転実習(障害物回避)						1時間		
4	トラクターの運転実習(見通しの悪い交差点)						1時間		
5	トラクターの運転実習(一時停止・発車、左折(巻き込み確認))						1時間		
6	免許試験コース(第1コース)の説明及び確認						1時間		
7	免許試験コース(第2コース)の説明及び確認						1時間		
8	免許試験コース(第1コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)						1時間		
9	免許試験コース(第1コース)の運転練習(発車・停止・左折等)						1時間		
10	免許試験コース(第1コース)の運転評価						1時間		
11	免許試験コース(第2コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)						1時間		
12	免許試験コース(第2コース)の運転練習(発車・停止・左折等)						1時間		
13	免許試験コース(第2コース)の運転評価						1時間		
14	免許試験コース(第1コース)実技試験前最終見極め確認						1時間		
15	免許試験コース(第2コース)実技試験前最終見極め確認						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	322	農業簿記基礎		学科名	農学科 畜産学科	学年	1	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～6月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定３級取得レベルを目指す。								
使用教材	・農業簿記検定教科書３級（大原出版） ・農業簿記検定問題集３級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	簿記の意義、記帳から決算までの流れ						1	農業大学校指導職員	
2	貸借対照表及び損益計算書の意味と構成						1		
3	取引と勘定、帳簿						1		
4-5	仕訳						2		
6-7	収益と費用						2		
8-9	資産、負債、資本						2		
10	建物・農機具の減価償却の計算法						1		
11-13	決算書作成						3		
14-15	農業簿記の特徴と決算書の見方						2		
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習、講師から出される課題（農業簿記検定 ７月）								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	323	農業簿記演習			学科名	農学科 畜産学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9～11月
科目の概要	農業簿記基礎で学んだ内容（農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れ）について理解を深め、農業簿記検定3級の合格を目指す。									
講師名	農業大学校指導職員								実務経験のある 教員等による授 業科目	
到達目標	農業簿記検定3級取得レベルを目指す。									
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）									
成績評価	方法	知識（90点）				出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	農業簿記検定3級試験成績を参照する。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	試験対策	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					1	農業大学校指導職員		
2	試験対策	貸借対照表及び損益計算書の意味と構成					1			
3	試験対策	取引と勘定、帳簿					1			
4-5	試験対策	仕訳					2			
6-7	試験対策	収益と費用					2			
8-9	試験対策	資産、負債、資本					2			
10	試験対策	建物・農機具の減価償却の計算法					1			
11-13	試験対策	決算書作成					3			
14-15	試験対策	農業簿記の特徴と決算書の見方					2			
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習、講師から出される課題（農業簿記検定 11月）									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	324	マーケティング I		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 履修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	内部・外部環境分析、マーケティングの基礎知識や販売戦略、原料調達などの一連の工程を体系的に学ぶ。 商品開発に向けた各工程の課題整理や計画・実績に関する議論、進捗管理を行い、商品開発・販売の手法を学ぶ。								
講師名	外部講師 フードビジネス専攻担当職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	マーケティングの基礎知識や販売戦略、原料調達などの一連の工程を体系的に理解する。 商品開発や販売の手法を理解する。								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義後の発表と毎回の講義後に提出するレポートで評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業を取り巻く現状の分析・課題整理 及び 食の未来について ・宮崎（または宮崎農大）と世界における日本全体の農業(食) のいまと未来を分析する ・SWOT分析、競争要因分析 ・グループワーク・発表						3		
2	マーケティング＝「顧客を教育、育てることで売り込みを不要とする」とは ・差別化要素を考慮した商品開発、営業の重要性について ・プル、プッシュマーケティング戦略 4P、4C、3Cの視点 ・STP戦略 ・市場の細分化 ターゲット設定 ・商品の立ち位置 ・グループワーク・発表						3		
3	個人による新商品開発・販売戦略シート作成 ・新商品開発案について商品の「SWOT分析」「4P分析」の個人ワーク ・マーケティング戦略の視点で新商品のブラッシュアップ、意見やアイデアの洗い出し 販売戦略シートを作成する。 ・グループ発表						3		
4	原価と価格戦略の講義＋グループによる新商品開発・販売会議の実践 ・個人ワークで作成した販売戦略シートの中から1商品を選び、グループ分析、意見・アイデアの洗い出しを行う。 ・商品を多角的に分析し、ブラッシュアップする手法を学ぶ ・グループワーク・発表						3		
5	新商品の販路拡大に向けた具体的なマーケティング手法を学ぶ ・新商品について、AIDOMA・AISASの法則や商品の品揃え戦略、イベント戦略、サービス戦略、情報戦略などの視点から具体的な施策を考え、新規顧客の誘客や顧客満足度につなげるための方法をまとめる。 ・グループワーク・発表						3		
授業時間外に必要な学修	本講義は演習を基本とし、商品試作・製造やマーケティング活動等に関する実習時間は別途設ける。								
再試験及び補習対象の実施基準									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	325	農業機械		学科名	全学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月
科目の概要	農業機械（農業機械全般に関するテスト、ノギスの使用方法、工具の取扱、トラクターの整備、プラウの着脱）農業機械に関する安全研修。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	1年間の農業機械に関する知識が備わっているか、安全に操作出来ているか。								
使用教材	農業機械（教本）								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとにペーパーと実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	工具の取扱い(講義・実習)						1時間		
2	トラクターの構造・点検(講義・実習)						1時間		
3	トラクターの整備（実習）						1時間		
4	トラクターの構造・点検・整備（学科試験）						1時間		
5	工具の取扱い(実技試験)						1時間		
6	〃						1時間		
7	トラクターへのプラウの着脱・調整（実習）						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	〃						1時間		
11	プラウの着脱・調整（実技試験）						1時間		
12	〃						1時間		
13	トラクターの安全走行（斜面走行）（演習）						1時間		
14	〃						1時間		
15	農作業安全の基本（DVD視聴、農機具メンテナンス）						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	326	大型機械操作演習		学科名	全学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	30	開講時期	7～12月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法						2時間		
2	トラクターの運転実習(方向転換)						2時間		
3	トラクターの運転実習(障害物回避)						2時間		
4	トラクターの運転実習(見通しの悪い交差点)						2時間		
5	トラクターの運転実習(一時停止・発車、(左折(巻き込み確認))						2時間		
6	トラクターの運転実習(S字コース)						2時間		
7	免許試験コース(第1コース)の説明及び確認						2時間		
8	免許試験コース(第2コース)の説明及び確認						2時間		
9	免許試験コース(第1コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)						2時間		
10	免許試験コース(第1コース)の運転練習(発車・停止・左折・S字)						2時間		
11	免許試験コース(第1コース)の運転評価						2時間		
12	免許試験コース(第2コース)の運転練習(方向転換・障害物回避)						2時間		
13	免許試験コース(第2コース)の運転練習(発車・停止・左折・S字)						2時間		
14	免許試験コース(第2コース)の運転評価						2時間		
15	免許試験コース実技試験前最終見極め確認						2時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和7年度 授業計画書[シラバス]

科目名	327	ドローン操作基礎			学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6 月～7 月
科目の概要	農薬散布用ドローンの基礎知識や最新機種の特徴・性能について講義する。 農薬散布用ドローンの基礎知識や関係法令を学びながら、トイドローンの操作演習も行い、資格取得を目指す。									
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター）						実務経験のある教員等 による授業科目			
到達目標	農薬散布用ドローンの操縦資格を取得することを目的とします。 ドローン検定（3級）の資格取得も同時に目指します。									
使用教材	D J I AGRAS 教習所学科テキスト（AGRAS 農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（3級）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。 （試験に合格しない場合は、資格を 取得することができません）			出席率に応じた係数を乗じた点数と する。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点す る。 資格試験のため、公欠でも別途講義 を受ける必要があります。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容						時間	備考		
1	ドローンの基礎知識と特徴について						1	6月2日	2限目	
2	ドローンの基礎知識と飛行原理について						1	6月2日	3限目	
3	航空法について						1	6月4日	2限目	
4	散布飛行の知識について						1	6月4日	3限目	
5	農薬の知識について						1	6月11日	2限目	
6	作物保護の知識について						1	6月11日	3限目	
7	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）						1	6月27日	4限目	
8	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）						1	6月27日	5限目	
9	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）						1	6月27日	6限目	
10	試験に向けた復習及びテスト						1	6月30日	2限目	
11	最新機種（Tシリーズ）の特徴と性能について						1	6月30日	3限目	
12	最新機種（Tシリーズ）の復習及びテスト						1	7月7日	2限目	
13	ドローンの自動航行について						1	7月7日	3限目	
14	ドローンの自動航行に関する復習及びテスト						1	7月10日	2限目	
15	ドローン教習に向けた復習						1	7月10日	3限目	
授業時間外に 必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠である場合は補講を行う必要があります。 講義を受講していない場合は、筆記テストを受験することができません。 基礎知識の定着のため、ドローン検定3級の資格を取得することを推奨します（別途案内あり）。									
再試験及び補 修対象の実施 基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和7年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	328	ドローン操作演習			学科名	全学科	学年	1 年	学期	特別
授業の方法	演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8 月
科目の概要	農薬散布用ドローンの操縦資格取得を目的とする。ドローンの基礎知識や法令を学びながら、操作の演習も行い、オペレーター資格を取得をします。操作演習は、県内民間業者に協力をお願いし、本格的な実技研修を行う。									
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター） 南榮工業株式会社						実務経験のある教員等 による授業科目			
到達目標	農薬散布用ドローンの操縦資格を取得することを目的とします。 ドローン検定（3級）の資格取得も同時に目指します。									
使用教材	D J I AGRAS 教習所学科テキスト（AGRAS 農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（3級）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。 （実散布研修も試験を行います。試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容						時間	備考		
1～15 （3日間）	農薬散布用ドローン本体・送信機の起動方法、基本的な操作方法						1	夏期休業中		
	トイドローン操作練習（離陸・着陸・上昇・下降）						1			
	トイドローン操作練習（前進・後進）						1			
	トイドローン操作練習（回転・ターン）						1			
	トイドローン操作練習（連続飛行）						2			
	自動航行による操作練習及び散布練習（液体（水））						2			
	講義の復習（自動航行による操作・応用）						1			
	手動（GPS無し）による操作練習（8の字飛行）						2			
	ドローンによる農薬散布範囲設定及び演習飛行						2			
	講義の復習（自動航行・手動操作）及び最終テスト						2			
授業時間外に必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠の場合は補講を行う必要があります。 基礎知識の定着のため、ドローン検定3級の資格を取得することを推奨します（別途案内があります）。									
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。 ドローン操作演習については、気象条件により、研修日程が変更する可能性があります。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	329	会社経営Ⅰ (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 必修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営における運営方法や経営計画や経理などを学ぶ。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員 外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・会社経営に関する基礎知識を身につける。 ・模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)		学習態度(減点)		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やレポート提出により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	模擬会社に関する研究① 会社概要の理解、経営目標の立て方について						1		
2	外部講師 「会社経営における商品開発」 利久庵						1		
3	外部講師 「パッケージデザインについて」 ストロールデザイン						1		
4	外部講師 「会社経営における経営者の心得」 デーリーマーム						1		
5	模擬会社に関する研究② 会計ソフトの活用について						1		
6	模擬会社に関する研究③ 大規模イベントにおける販売計画の立て方						1		
7	模擬会社に関する研究④ 大規模イベントにおける販売ブースレイアウト等対応方法について						1		
8	模擬会社に関する研究⑤ 大規模イベントにおける販売ブースディスプレイ等対応方法について						1		
9	模擬会社に関する研究⑥ 組織運営のあり方について						1		
10	模擬会社に関する研究⑦ 業務内容の引き継ぎ手法について						1		
11～13	模擬会社に関する研究⑧ 定時株主総会に向けた決算書類作成について						3		
14	模擬会社に関する研究⑨ 組織運営、活動計画の立て方について						1		
15	模擬会社に関する研究⑩ 講義全体の振り返り及び経営課題分析						1		
授業時間外に必要な学修	会社全体、専攻ごとの販売実績について要因を分析するため情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和7年度 授業計画書[シラバス]

科目名	330	食品の機能性Ⅰ		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択（フ以外） 履修（フ）	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月～2月
科目の概要	食品の機能性に関する基礎知識を身につけ、食品の機能性と生体の関係性について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 教諭							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	食品の栄養性、嗜好性、機能性について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後、評価試験を実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～3	食品とは						3		
	食品の成分と3つの機能性								
	機能性食品とは								
4～6	口内や消化管内で作用する機能 虫歯の原因になりにくい食品						3		
	おなかの調子を整える食品								
	コレステロールが高めの方のための食品								
7～9	カルシウムの吸収を助ける食品						3		
	血糖値が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪が気になる方のための食品								
10～12	消化管内で吸収後の機能 血圧が高めの方のための食品						3		
	骨の健康が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪や体脂肪が気になる方のための食品								
13～15	抗酸化作用をもつ食品						3		
	機能性食品の素材と開発								
	講義の復習及び食品の最新の話題について								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	331	食品衛生／食品表示		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 履修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～11月
科目の概要	食品衛生や食品表示に関する知識や技術を身につけ、農業大学校生産物・加工品を題材に、表示ルール「食品表示基準」を遵守した表示が出来るようになる。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識を理解する。								
使用教材	食品衛生責任者ハンドブック、食品表示検定初級テキスト								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	以下の①～③により評価する。 ① 食品衛生責任者養成講座の修了 ② 食品表示検定の点数 ③ 評価テスト			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	食品衛生及び食品表示の概要について						1		
2～3	食品衛生に関する基礎知識①						2		
4～5	食品衛生に関する基礎知識②						2		
6～7	食品衛生に関する基礎知識③						2		
8～9	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識①						2		
10～11	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識②						2		
12～13	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識③						2		
14	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識④						1		
15	講義の振り返り及び食品表示に関する今日的課題について						1		
授業時間外に必要な学修	・食品衛生責任者養成講座（eラーニング）の専攻特別実習等による視聴（7月中に視聴すること） ・食品表示検定初級（11月受験） ・食品表示検定（オンデマンド）は、9月末～11月末（試験日まで）各自必ず受講すること。								
再試験及び補習対象の実施基準									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	332	農業概論		学科名	農学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・各品目の生理生態と栽培管理技術について学ぶ。 ・6次化及び食品加工について学ぶ。								
講師名	農業大学校農学科指導職員 総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・品目ごとの生理生態や一般的な栽培管理技術を習得する。								
使用教材	・農業のきほん（誠文堂） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	植物の性質と栽培のきほん、植物の光合成						1	農業大学校指導職員	
2	栽培技術と管理の基本						1		
3	施設野菜栽培の復習と最新の技術情報						1		
4	土・肥料の役割と土壌管理、野菜良品づくりのきほん						1		
5	露地野菜栽培の復習と注目品種情報						1		
6	安心良質米づくりのきほんと畑作物栽培のきほん						1		
7	米・畑作物栽培の復習と注目品種情報						1		
8	花き（草花）管理と病虫害防除のきほん						1		
9	花き栽培の復習と最新の技術情報						1		
10	果樹良果多収のきほん、畜産安定のきほん						1		
11	果樹栽培の復習とブランド化						1		
12	農業による地域活性化（6次産業化と地産地消）						1		
13	フードビジネス関連の復習とグリーンツーリズムの可能性						1		
14	茶栽培のきほんと病虫害防除のきほん						1	茶業支場職員	
15	茶栽培の復習と注目品種情報						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	333	スマート農業基礎(農)		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	演習		区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。									
講師名	宮崎大学講師、農業法人、民間企業、茶業支場職員、 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目			
到達目標	・民間企業や農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験及びレポートにて理解度を 評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数 とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	スマート農業の現状と今後の展開 ・ICT技術の進化と生活・産業面での普及 ・AI・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開 (レポート)						3	宮崎大学農学部 講師		
2										
3										
4	スマート農業の実践①産業用ドローンの現状、活用事例 ドローンによるリモートセンシング事例 (レポート)						2	農業大学校指導職員		
5										
6	スマート農業の実践②農作業のスマート化の現状 水稻栽培で使用するスマート農業機械 (レポート)						2	総合農業試験場 職員		
7										
8	スマート農業の実践③農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果 (レポート)						2	民間企業		
9										
10	スマート農業の実践④農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを 活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農業機械の一貫経営技術 (レポート)						2	農業法人		
11										
12	スマート農業の実践⑤ロボット等高性能農業機械について ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例、今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演、操作演習						2	機械メーカー		
13										
14	スマート農業の実践⑥自動操舵の仕組みについて						1	農業大学校指導職員		
15	自動操舵、衛星測位、誤差と補正の復習と試験						1	農業大学校指導職員		
授業時間外に 必要な学修	特になし									
再試験及び補習 対象の実施 基準	原則実施しない									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	334	土壌肥料基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月
科目の概要	・農業生産の基本となる土壌・肥料、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について学ぶ								
講師名	民間企業（環境土壌クリニック（株）リクリア等） 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	土壌や肥料の基礎知識を習得し、プロジェクト学習に資する。 環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について習得する。 土壌医検定3級合格の6割の理解力を目指す。								
使用教材	・土づくりと作物生産（一社）日本土壌協会 ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	レポートにより理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	土壌の役割について					1	農業大学校職員		
2	微生物を活用した循環型農業について（レポート）					2	民間企業		
3									
4	微生物を活用した循環型農業（土壌病害抑制）（レポート）					2	民間企業		
5									
6	日本と世界の代表的な農耕地土壌と特性、土壌の物理性（レポート）					2	民間企業		
7									
8	土壌の化学性と土壌診断、土壌や作物別の施肥管理と施肥設計（レポート）					2	民間企業		
9									
10	農耕地土壌の生物性向上と土づくり 土壌の生物性、土壌微生物の多様化・活性化と病害虫対策（レポート）					2	民間企業		
11									
12	土壌有機物と土壌に生息する生物について					1	農業大学校職員		
13	土壌断面調査演習 （演習レポート）					3	民間企業		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	335	農学専攻実習Ⅰ		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の栽培方法や出荷調整について、理解度を評価する。		プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、水管理、施肥管理など栽培管理及び出荷調整方法を理解し実践しているかを評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		実習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。 実習日誌未提出 ▲20 実習日誌時々提出▲10 記載内容不十分 ▲10	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
作物、野菜、果樹、茶専攻									
通年	○各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 (播種、育苗、定植、誘引、整枝剪定、土づくり、採種 肥培管理、病害虫管理、温度管理、雑草対策、農業機械の操作) ○各専攻で栽培する品目の出荷調整技術の習得 (収穫方法、出荷調整方法) ○比較試験の調査及びデータまとめ方法の習得						270	農業大学校指導職員 総合農試茶業支場職員 (茶専攻)	
花専攻									
通年	○各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 (播種、育苗、定植、誘引、整枝剪定、土づくり、採種 肥培管理、病害虫管理、温度管理、雑草対策、農業機械の操作) ○各専攻で栽培する品目の出荷調整技術の習得 (収穫方法、出荷調整方法) 比較試験の調査及びデータまとめ方法の習得						270	農業大学校指導職員	
	○フラワー装飾技術演習							外部講師	
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	336	農学専攻特別実習Ⅰ		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の栽培方法や出荷調整について、理解度を評価する。		各専攻で栽培する品目の温度管理、水管理、施肥管理などの栽培管理及び出荷調整方法について理解し、プロジェクト学修に積極的に取り組んでいるかを評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		実習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。 実習日誌未提出 ▲20 実習日誌時々提出▲10 記載内容不十分 ▲10	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
作物、野菜、果樹、茶専攻									
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術及び出荷調整技術の習得 （温度管理、肥培管理、病虫害対策、雑草対策、整枝剪定 農業機械の操作、出荷調整）					120	農業大学校指導職員 総合農試茶業支場職員（茶専攻）		
花専攻									
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術及び出荷調整技術及び出荷調整技術の習得 （温度管理、肥培管理、病虫害対策、雑草対策、整枝剪定 農業機械の操作、出荷調整）					120	農業大学校指導職員 総合農試茶業支場職員（茶専攻）		
	フラワー装飾技術演習						外部講師		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出、フラワー装飾技術演習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	337	有機農業概論		学科名	農学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・ 有機農業に取り組むための考え方や基礎的な知識について学ぶ。 ・ 有機農業の実践者から栽培管理技術のポイントや販売戦略について学ぶ。								
講師名	・ 民間企業（一社 フードトラストプロジェクト、みやざき有機農業協会、流通販売業者等）、有機農業実践者 ・ 県・市町村有機農業担当課職員 ・ 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 有機農業に取り組むための知識を習得させる。								
使用教材	・ 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験及びレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	有機農業とは ・ 国内外における有機農業の歴史と流れ、メカニズム（レポート）					2	民間企業		
2									
3	宮崎県における有機農業の推進について（レポート）					1	宮崎県農政水産部担当課		
4	有機農業における管理技術① 環境づくり					1	農業大学校指導職員		
5	有機農業における管理技術② 病虫害防除					1	農業大学校指導職員		
6	地域における有機農業の取組について（レポート）					1	市町村有機農業担当課		
7	有機 J A S の認証取得について					1	有機JAS農業認証団体		
8	有機農業実践論（有機 J A S 認証取得者） ・ 土づくり、栽培のポイント、販売戦略（レポート）					2	有機農業実践者（高鍋町・木城町）		
9									
10	有機栽培実践論（有機栽培実践者、有機農産物取扱流通販売業者） ・ 有機農業における土づくり、栽培のポイント、省力化、販売戦略（レポート）					6	有機栽培実践者 民間企業		
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	338	G A P 演習Ⅰ（農）		学科名	農学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・ G A Pの内容を理解し、G A P 基準書に基づいた点検・管理方法を実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ G A P 基準書の内容を理解させ、自己点検・管理方法を習得させる。 ・ G A P 承認審査を受審し、内容を理解させる。								
使用教材	講師準備資料、G A P 基準書 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	G A P 基準書に基づいた自己点検・管理方法、審査内容の理解度を各専攻の指導職員が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			演習中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	G A P 基準書に基づく経営体制整備						1	農業大学校指導職員	
2	G A P 基準書に基づく生産体制整備						1		
3	G A P 基準書に基づくリスク管理（危険箇所の把握と対策）						1		
4	G A P 基準書に基づく自己点検 リスク管理（食品安全、労働安全、環境保全）						1	農業大学校指導職員	
5	G A P 基準書に基づく自己点検 人的資源（雇用・労働環境と事故防止）						1		
6	G A P 基準書に基づく自己点検 経営資源（ほ場と周辺環境、堆肥、水）						1		
7	G A P 基準書に基づく自己点検 経営資源（農産物取扱施設）						1	農業大学校指導職員	
8	G A P 基準書に基づく自己点検 経営資源（機械・装置、設備、運搬車両）						1		
9	G A P 基準書に基づく自己点検 栽培管理（育苗管理、I P M）						1		
10	G A P 基準書に基づく自己点検 栽培管理（適正防除）						1	農業大学校指導職員	
11	G A P 基準書に基づく自己点検 栽培管理（適正施肥）						1		
12	G A P 基準書に基づく自己点検 栽培管理（肥料・農薬・機械使用の履歴）						1		
13	M I Y A Z A K I－G A Pの審査受審（模擬審査含む）						3	農業大学校指導職員	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	339	作物の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（作物専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・ 水稻、麦類、豆類、露地野菜を対象に、これらを取り巻く情勢、特性及び栽培技術の理論等を学修する。 ・ 栽培管理に不可欠な肥料および農薬の計算方法、使用方法や土壌管理について学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 作物及び野菜の分類と各品目の特性や農薬、肥料の基本的な技術について理解し、プロジェクト学修への意欲を高める。								
使用教材	作物栽培の基礎 作物学の基礎Ⅰ 野菜園芸学の基礎 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の作物生産の現状						1	農業大学校指導職員	
2	作物栽培の基本①（施肥管理）						1		
3	作物栽培の基本②（農薬管理）						1		
4	水稻栽培における生育時期ごとの水管理						1		
5	水稻の育苗						1		
6	豆類栽培の基礎（大豆・落花生等の特性）						1		
7	麦類の栽培と現状（麦類の種類、国内の生産状況と課題ほか）						1		
8	（畑作物）栽植密度						1		
9	（畑作物）種苗生産・供給						1		
10	（畑作物）作型（植付時期・収穫時期・在ほ日数）						1		
11	（畑作物）作付体系（品目の組み合わせ）						1		
12	（畑作物）畑の土壌管理（畑土壌の化学性・物理性）						1		
13	（畑作物）作付計画・作業計画						1		
14	（畑作物）畑作物の経営管理						1		
15	作物に関する最新話題、テスト						1		
授業時間外に必要な学修	講義内容を深めるための学修及び講義内容以外の関連事項の学修								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	340	施設野菜の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修(野菜専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・野菜の分類、野菜の特性と栽培、利用について専門的に学修する。 ・野菜の各品目の生理生態、特性、栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	すいかの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗・肥培管理）					1	農業大学校指導職員		
2	すいかの生理生態と栽培管理（温湿度管理・病害虫対策）・小テスト					1			
3	トマトの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗・肥培管理）					1			
4	トマトの生理生態と栽培管理（温湿度管理）					1			
5	トマトの生理生態と栽培管理（病害虫対策）・小テスト					1			
6	きゅうりの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗管理）					1			
7	きゅうりの生理生態と栽培管理（肥培管理、温湿度管理）					1			
8	きゅうりの生理生態と栽培管理（病害虫対策）・小テスト					1			
9	ピーマンの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗・肥培管理）					1			
10	ピーマンの生理生態と栽培管理（温湿度管理、病害虫対策）・小テスト					1			
11	いちごの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗・肥培管理）					1			
12	いちごの生理生態と栽培管理（温湿度管理・病害虫対策）・小テスト					1			
13	メロンの生理生態と栽培管理（品種の特性、育苗・肥培管理）					1			
14	メロンの生理生態と栽培管理（温湿度管理）・小テスト					1			
15	施肥設計及び病害虫防除基礎					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	341	果樹の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（果樹専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・果樹の分類、果樹の特性と栽培・利用について専門的に学修する。 ・果樹の各品目の特性・栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	果樹栽培の基礎 講師準備資料（果樹栽培指針等）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	果樹の栽培と利用					1	農業大学校指導職員		
2	果樹の生長と果実生産					1			
3	年間の管理と良果多収の基本					1			
4	マンゴーの栽培管理(品種の特性、温湿度管理、肥培管理)					1			
5	マンゴーの病害虫対策					1			
6	きんかんの栽培管理（品種の特性、温湿度管理、肥培管理）					1			
7	きんかんの病害虫対策					1			
8	ぶどうの栽培管理（品種の特性、温湿度管理、肥培管理）					1			
9	ぶどうの病害虫対策					1			
10	みかんの栽培管理（品種の特性、温湿度管理、肥培管理）					1			
11	みかんの病害虫対策					1			
12	ライチの栽培管理（品種の特性、肥培管理）・病害虫対策					1			
13	日向夏栽培管理（品種の特性、肥培管理）・病害虫対策					1			
14	アボカドの栽培管理（品種の特性、肥培管理）					1			
15	枝の生長と整枝・剪定					1			
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	342	花きの栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（花専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・花きの分類、花きの特性と栽培・利用について専門的に学修する。 ・花きの各品目の開花特性・栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花きの生産現状と開花調節、鮮度保持技術について理解するとともに、県内の主要品目の知識を習得し専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	草花栽培の基礎 講師準備資料（花き栽培指針）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の花き生産の現状						1	農業大学校指導職員	
2	花きの成長・開花調節技術						1		
3	花きの品質と品質保持技術・小テスト						1		
4	キクの栽培管理(品種の特性、温湿度管理、肥培管理)						1		
5	スイートピーの生理生態						1		
6	スイートピーの栽培環境と品種・小テスト						1		
7	トルコギキョウの生理生態と育苗方法						1		
8	トルコギキョウの栽培環境と出荷調整・小テスト						1		
9	ダリアの生理生態と栽培環境・小テスト						1		
10	デルフィニウムの生理生態と栽培管理（温湿度管理、肥培管理）						1		
11	ラナンキュラスの生理生態と切り花栽培管理（温湿度管理、肥培管理）						1		
12	ラナンキュラスの球根養成管理・小テスト						1		
13	ホオズキの栽培管理（品種の特性、温湿度管理、肥培管理）						1		
14	鉢苗物の栽培管理（品種の特性、温湿度管理、肥培管理）						1		
15	花き類の病虫害管理						1		
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験はしない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	343	茶の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（茶専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・茶樹の生理生態と基本的な栽培技術について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の栽培管理の体験や生育・収量調査及び病害虫の発生調査等などを通して、茶樹の生理生態と基本的な栽培技術を理解させる。								
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	茶の生育と茶園管理スケジュール						1	茶業支場支場長	
2	茶の育苗・定植						1	茶業支場育種科	
3	茶の幼木管理						1	茶業支場育種科	
4	茶の摘採（被覆）						1	茶業支場栽培加工科	
5	茶の収量・品質						1	茶業支場栽培加工科	
6	茶の剪枝方法						1	茶業支場栽培加工科	
7	慣行防除園で発生する主な害虫						1	茶業支場栽培加工科	
8	慣行防除園で発生する主な病害						1	茶業支場栽培加工科	
9	有機栽培で発生する主な病害虫						1	茶業支場栽培加工科	
10	茶の病害防除						1	茶業支場栽培加工科	
11	茶の害虫防除						1	茶業支場栽培加工科	
12	茶の施肥方法						1	茶業支場栽培加工科	
13	茶の有機栽培他						1	茶業支場栽培加工科	
14	茶の防霜対策						1	茶業支場栽培加工科	
15	茶の栽培管理の復習と最新技術情報						1	茶業支場支場長	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	344	先進農業事例研究		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	先進的な農業者、企業的農業者の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）		学習態度（減点）		
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		研修中の態度により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	校外学習					3	農業大学校指導職員		
2	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組（集出荷施設、雇用経営、先進的な栽培技術）								
3									
4	校外学習					3	農業大学校指導職員		
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組②（環境制御技術、省力栽培、最新の品種）								
6									
7	校外学習					3	農業大学校指導職員		
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組③（卸売市場、育苗施設、特徴的な商品づくり）								
9									
10	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組④（企業経営、機械化一環体系、肥料・飼料製造施設）					6	農業大学校指導職員		
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	345	茶の加工		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	必修 (茶専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・茶の基本的な加工技術と審査法について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の基本的な加工技術と審査法の知識を習得させる。								
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	茶の分類、生葉の取り扱いと保管						1	茶業支場栽培加工科	
2	煎茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科	
3	煎茶の仕上げ加工						1	茶業支場栽培加工科	
4	製茶工場設備と衛生管理						1	茶業支場栽培加工科	
5	玉露、てん茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科	
6	蒸し製玉緑茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科	
7	釜炒り茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科	
8	釜炒り茶の仕上げ加工						1	茶業支場栽培加工科	
9	半発酵茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科	
10	茶の仕上げ加工法						1	茶業支場栽培加工科	
11	茶の貯蔵と包装						1	茶業支場栽培加工科	
12	煎茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科	
13	釜炒り茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科	
14	半発酵茶、紅茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科	
15	茶加工の復習及び最新の技術情報						1	茶業支場栽培加工科	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	346	農業気象学		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～3月
科目の概要	・農業気象の基礎知識を学ぶ。 ・自然環境に対応する園芸・被服資材、ハウスの基本仕様等、施設内環境の制御技術について学ぶ。 ・自然環境の中で、鳥獣被害の現状、被害軽減対策を学ぶ。								
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当、企画情報室職員 鳥獣被害対策支援センター(専門技術センター担当) JA宮崎経済連 建築設計センター 担当者 児湯農林振興局(土地利用営農担当) 職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	農業気象の基礎知識を理解し、園芸施設の環境設定、鳥獣被害対策を理解する事で、プロジェクト学修に反映させる。								
使用教材	・図解でよくわかる農業のきほん(誠文堂新光社) ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業気象の基礎知識と地球温暖化について 宮崎の気候特性について						2	総合農業試験場 企画情報室	
2									
3	天気図と雲の見方について 宮崎の気候特性について						2		
4									
5	気象災害の事前・事後対策について						1	農業大学校指導職員	
6	農業気象・気象災害の復習及び最新の話題						1		
7	鳥獣害被害対策について (小テスト)						2	鳥獣被害対策支援センター	
8									
9	施設園芸の現状について 被覆資材と光環境制御について						2	総合農業試験場 専門技術センター	
10									
11	複合環境制御と省エネルギー対策 農業用廃プラスチックのリサイクルについて						2		
12									
13	マルチの特徴と被覆資材について						1	農業大学校指導職員	
14	外張り資材について						1		
15	内張り資材について						1		
16	被覆資材及び環境制御の復習と最新情報						1		
17	県標準型ハウスの基本仕様と構造						2	JA宮崎経済連 建築設計センター	
18									
19							2		
20									
21	農業大学校のハウスの仕様について						1	農業大学校指導職員	
22	ハウスの基本仕様と構造の復習と最新情報						1		
23	畑地かんがいにおけるかん水資材の活用について						1	児湯農林振興局	
24									
25	観測機器の取扱と注意点						1	農業大学校指導職員	
26	ハウス内モニタリングの実際						1		
27	環境制御と日長調節について(花き)						1		
28	環境制御について(果樹)						1		
29	環境制御について(施設野菜)						1		
30	露地栽培における資材の活用と地温、水分の変化について						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準									

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	347	病虫害基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～3月
科目の概要	・病虫害の発生や生態の基本知識を理解した上で、自然環境に応じた防除方法を学び、農薬の取扱方法や安全対策について理解する。								
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当、生物環境部担当 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	植物の病気発生メカニズム、害虫の生態を学ぶとともに、無農薬による防除方法、農薬の種類・特性・使用法を理解させる。								
使用教材	・図解でよくわかる病虫害のきほん（誠文堂新光社） ・図解でよくわかる農薬のきほん（誠文堂新光社） ・農薬概説2022（日本植物防疫協会） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	作物保護と農薬、植物防疫、関係法令、農薬の一般知識						2	農業大学校指導職員	
2									
3									
4									
5	害虫の基礎知識（農作物の害虫、昆虫類とダニ類、昆虫の分類、昆虫の基礎用語、総合防除）						1	総合農業試験場 （病虫害防除・肥料検査センター職員）	
6	病虫害の発生予察と侵入調査						1	食の安全分析センター 農業大学校指導職員	
7	病虫害試験研究の進め方						1		
8	残留農薬分について						1		
9	病虫害の分類と発生予察の復習と総合防除について						1		
10	病気の発生要因、化学的防除（主な殺菌剤の種類と作用、使用上の注意）、生物的防除、物理的防除、耕種的防除						2	総合農業試験場 専門技術センター （病虫害担当）	
12	病原体の種類とその被害、病気の診断						2	農業大学校指導職員 農業大学校指導職員	
13	病気の種類と防除法について						1		
14	主な植物の病気とその被害例、防除方法の復習と最新情報						1		
15	主要害虫（昆虫類、ダニ類、その他）の被害と防除						2		
16	作物別害虫の発生消長と生活環、被害とその対策						2	総合農業試験場 生物環境部 副部長	
17	総合的害虫管理と害虫管理における留意点						2		
18	害虫の種類と防除法について						1		
19	主な害虫の種類と生態、被害例と防除方法の復習と最新情報						1		
20	病気と害虫の被害例とその対策（施設野菜）						1	農業大学校指導職員	
21	病気と害虫の被害例とその対策（露地野菜）						1		
22	病気と害虫の被害例とその対策（水稲）						1		
23	病気と害虫の被害例とその対策（畑作物）						1		
24	病気と害虫の被害例とその対策（果樹）						1		
25	病気と害虫の被害例とその対策（花き）						1		
26	病気と害虫の被害例とその対策（特用作物）						1		
27	再試験及び補習対象の実施基準						再試験及び補習対象の実施基準		
28	再試験及び補習対象の実施基準						再試験及び補習対象の実施基準		

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	348	畜産概論		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期	
授業の方法	講義		区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・畜産物生産の意義と役割、畜産の経営、畜産物の生産から流通、利用に至るまでの畜産全般について基礎的なことを広く学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産全般について基礎的な知識を習得する。 ・農業技術検定3級程度の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 等									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考		
1	家畜と人間生活（畜産の意味、畜産の歩み） ●〈畜産概論〉我が国畜産の沿革及び特徴						1	担当講師： 農業大学校職員		
2	家畜の主要品種の改良と特徴 ●〈畜産概論〉家畜の主要品種の特徴						1			
3	乳用牛、肉用牛、豚の一生と生産、畜産経営形態の種類と特徴 ●〈畜産概論〉主要畜産物（乳・肉等）の生産に関する要因						1			
4	家畜飼養管理、畜産の環境と防疫、動物福祉（アニマルウェルフェア）、牛トレーサビリティ制度、生産工程管理（HACCP、GAP等） ●〈畜産概論〉家畜飼養管理とアニマルウェルフェア						1			
5	畜産を取り巻く現状（総論まとめ：評価） ●〈畜産概論〉						1			
6	畜産物の利用（乳と乳製品）：衛生的な取扱いについて						1			
7	畜産物の利用（肉と肉製品）：加工と流通について						1			
8	畜産物の利用（卵と卵の利用、機能性食品、皮・毛・羽毛、医療用器材）						1			
9	肉用牛繁殖経営の実際（飼養管理、流通）						1			
10	肉用牛肥育経営の実際（飼養管理、流通）						1			
11	酪農経営の実際（飼養管理、流通）						1			
12	養豚経営の実際（飼養管理、流通）						1			
13	養鶏経営の実際（飼養管理、流通）						1			
14	その他の家畜（ヤギ、ヒツジ、ウマ）の実際						1			
15	畜産物及び家畜の管理について（5～14まとめ：評価）						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	349	スマート農業基礎(畜)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5 月～7 月
科目の概要	スマート農業を導入することで、農業が直面している課題の何を変えることができ、どのような技術を使うことでそれを変えることができるのかを学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用したプロジェクトとして取り組み、高度なスマート農業技術を習得させる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	スマート農業の現状と今後の展開					3	担当講師：宮崎大学 日吉		
4～5	ICTを活用した行動量監視による個体管理について					2	担当講師：コムテック		
6～7	ICTを活用したスマート酪農について					2	担当講師：西日本オリ オン株式会社		
8～9	ICTを活用した個体情報管理システム及び牛群管理について					2	担当講師：デザミス		
10～11	ICT技術と通信環境及び分娩管理システム等について					2	担当講師：（株）NT Tドコモ		
12～13	ICTを活用した牛群管理システムについて					2	担当講師：ファーム ノート		
14～15	ICTとドローン操作技術について					2	担当講師：南榮工業		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	350	畜産専攻実習Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理、加工等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・川南支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～20	家畜の飼養管理等（飼料給与設計）					20	7月		
21～50	家畜の飼養管理等（繁殖管理）					30	8月		
51～70	家畜の飼養管理等（疾病対策）					20	10月		
71～100	家畜の飼養管理等（哺育管理）					30	11月		
101～130	家畜の飼養管理等（飼養環境管理）					30	12月		
131～160	家畜の飼養管理等（肥育管理）					30	1月		
161～220	家畜の飼養管理等（家畜防疫対策）					60	2月		
221～270	家畜の飼養管理等（家畜排泄物処理）					50	3月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

[illegible]

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	352	家畜の栄養と飼料		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	7月～2月
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1～8	牛の栄養 ・栄養素（2時間） ・消化器の構造と機能（2時間） ・飼料の種類と特性（2時間） ・飼料の配合と給与（2時間） ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み 飼料の種類及び特性 飼料の配合及び給与					8	農業大学校職員		
9～11	豚の栄養 ・消化器の構造と機能（1時間） ・飼料の種類と特性（2時間） ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み 飼料の種類及び特性					3			
12～14	家畜の栄養状態の把握、家畜の養分要求量の把握、飼料設計診断 ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					3			
15	家畜の栄養まとめ・振り返り（評価） ●〈家畜の栄養〉					1			
16～27	自給飼料生産 ・自給飼料作物生産の意義（飼料作物の生産費） ・飼料作物の栽培と品種、収穫に係わる機械化体系（4時間） ・飼料作物栽培・収穫の手引き ・飼料作物の調整（サイレージ・乾草） ・放牧草地の利用と生産、飼料作物の生産費 ・飼料作物の土壌（2時間） ・良質堆肥の生産方法 ・雑草・病虫害防除 (評価)					12	外部講師		
28	現場での実習（土壌サンプル・堆肥）					1			
29	飼料作物関連新技術、エコフィードの活用					1			
30	本県における飼料作物栽培の現状と適正施肥（評価）					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	353	家畜の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・家畜の飼養管理体系と環境に応じた飼養管理技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の飼養管理体系や環境に応じた飼養管理技術の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト、日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳牛、肉用牛、豚）、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	牛に対する環境の影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1	担当講師： 農業大学校職員		
2	牛の管理施設の種類と特長（概論） ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
3	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖：飼養管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
4	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖：繁殖管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
5	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育：前期の管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
6	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育：後期の管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
7	講義の総括及び基礎的・新技術の知見紹介 ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
8	一般的な飼養管理方法(酪農：飼養管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
9	一般的な飼養管理方法(酪農：搾乳及び生乳の衛生管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
10	一般的な飼養管理方法(酪農：子牛、繁殖（乾乳）管理) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
11	飼養管理（酪農）の総括及び振り返り（評価） ●〈家畜の飼養管理〉					1			
12	豚の特性と環境などの影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1			
13	豚の管理施設の種類と特長 ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
14	一般的な飼養管理方法（豚） ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
15	飼養管理（養豚）の総括及び振り返り（評価） ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	354	家畜の育種と繁殖Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考	
1～7	家畜の育種 評価① ・家畜の遺伝の原理 ・家畜の主要形質の遺伝 ・家畜の選抜、交配および能力検定（牛・豚） ・家畜登録制度（牛・豚） ●〈家畜の育種〉家畜の遺伝の原理 家畜の主要形質の遺伝 家畜の選抜方法及びその特徴 家畜の交配方法及びその特徴 能力検定 家畜の登録制度						7	担当講師：外部講師	
8	妊娠と分娩 ・受精・発生 ●〈種付けの理論（妊娠と分娩）〉 雌生殖器官における精子及び卵子の移動及びその機能の変化						1	担当講師： 農業大学校職員	
9～12	妊娠と分娩 評価② ・胎子・胎膜の発育と着床 ・妊娠の経過と妊娠診断 ・分娩と産褥、繁殖障害 ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖整理）〉 胚、胎児の発育及び妊娠による母胎の変化 分娩の経過及び分娩後の繁殖機能 繁殖障害の概念及び原因						4	担当講師： 農業大学校職員	
13～14	人工授精技術Ⅰ（家畜人工授精の意義） 評価③ ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精技術の発展の歴史 人工授精技術の意義及び得失						2	担当講師： 農業大学校職員	
15～19	人工授精技術Ⅱ 評価④ ・精液の採取と検査 ・X精子・Y精子の選別分取処理 ・精液の凍結保存 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 精液の採取 精液及び精子の検査 保存液の特性及び精液の希釈 精液の液状保存及び凍結保存						5	担当講師：外部講師	
20～30	人工授精技術Ⅲ 評価⑤ ・凍結精液の保管と取扱い ・精液の注入 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 精液の注入 人工授精用器具等の種類及び特性 消毒の原理及び方法						11	担当講師： 農業大学校職員	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	355	人工授精演習			学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	演習		区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	・家畜人工授精業務に必要な知識と技術を習得するため、家畜の審査方法、生殖器の構造とともに、人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法等について学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・生殖器 ・講師作成資料 等									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考		
1	生殖器解剖：雌生殖器の構造 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖						1	講師担当： 農業大学校指導職員		
2	生殖器解剖：雌生殖器各部の名称及び機能 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖						1			
3	生殖器解剖：子宮臓器実習（触診、構造確認） ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖						1			
4	生殖器解剖：子宮臓器実習（子宮操作、注入器挿入練習） ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖						1			
5	生殖器解剖まとめ・振り返り（評価） ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖						1			
6	人工授精：関連法規 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法						1	担当講師： （肉用牛）和牛登録協会宮 崎県支部 （豚）畜試川南支場		
7	人工授精：台帳作成演習 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法						1			
8	人工授精：台帳・関連書類作成総括（評価） ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法						1			
9	家畜の体尺測定（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定						1			
10	家畜の体尺測定（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定						1			
11	家畜の体型審査（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉体型審査						1	担当講師： （乳用牛）経済連 （豚）畜試川南支場		
12	家畜の体型審査（肉用牛・豚）総括（評価） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定、体型審査						1			
13	家畜の体尺測定（乳用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定						1			
14	家畜の体型審査（乳用牛・豚） ●〈家畜の審査〉体型審査						1			
15	家畜の体型審査（乳用牛・豚）総括（評価） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定、体型審査						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	356	G A P 演習 I (畜)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	G A P の内容を理解し、G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検手法を習得させる。 ・ G A P 維持・更新審査の内容を理解させる。								
使用教材	J G A P 総合規則、農場用管理点と適合基準、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針、G A P 手順書 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	専攻毎のG A P 基準書、リスク評価への取組、記帳・演習への理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～3	G A P 基準書の理解（各専攻） G A P の概念、基準書に照らし合わせた農場のあり方の確認						3	担当講師：農業大学校職員	
4～8	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻） 各専攻の作業手順（マニュアル）を確認し、実践する						5		
9～12	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻） 2 学年合同で現状のリスク評価を見直し、リスク評価票を更新する						4		
13	商品トレーステスト、事故発生時の机上演習（各専攻）						1		
14	作業機器・農機の点検						1		
15	作業機器・農機の点検記録の記帳						1		
授業時間外に必要な学修	畜産専攻実習Ⅰ及び畜産専攻特別実習Ⅰにおける農場での実践演習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和7年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	357	削蹄演習Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	2～3月
科目の概要	家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・削蹄の技術を習得する。 ・2級認定削蹄資格を取得するための基礎を身につける。								
使用教材	・牛削蹄入門 ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。		実習時の習熟度について、講師の採点により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～9	削蹄の基礎について 蹄の構造、蹄の理想的な形状及び削蹄方法について					2	担当講師：外部講師		
	削蹄実習 牛の保定方法、削蹄時の足の挙上方法、蹄のカット方法					7			
10～14	削蹄実習及び削蹄実施牛の施術後管理 ・蹄に負荷のかからない放牧管理法の実践 ・削蹄後の牛床管理の実践					5	担当講師：農業大学校職員		
15	講義、実習の総括及び基礎的知識・新技術の知見紹介					1	担当講師：農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	358	専攻実習Ⅰ(フ)		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	7月～3月
科目の概要	農産物、畜産物の加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。また、栽培、加工、販売の6次産業化に取り組み、実践力を身につける。課題設定によるプロジェクト活動に取り組み問題解決能力を高める。								
講師名	フードビジネス専攻職員担当職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農大の農畜産物の栽培・飼養管理から加工、販売の一連の学習を通して課題解決能力の向上を図る。 ・農産物、畜産物の加工技術を習得する。 ・食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	農場での学習資料 食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席点（20点）		学習態度（減点）	
	基準	食品加工に関する基礎知識の修得状況について、プロジェクト活動を通して評価する。		専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減点する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～10	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識						10		
11～30	プロジェクト学習に関するテーマ設定、計画、実践						20		
31～60	農大の農畜産物の一次処理・冷凍保存（6次産業化に向けた取り組み）						30		
61～100	農大産の作物を使った焼き菓子（マドレーヌ、パウンドケーキ等）製造、ジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造						40		
101～130	原材料の生産・調達に係る実践農場での栽培管理と流通に関する学習						30		
131～170	農大産の牛乳を使ったチーズ、アイスクリームの製造						40		
171～210	農大産の畜産物を使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造						40		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	359	専攻特別実習Ⅰ(フ)		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習		区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	フードビジネス専攻におけるプロジェクト活動で必要な知識を習得するための学習や学生出資会社での販売実習、専攻での特別講義等を行うことにより、実践力を身につける。									
講師名	フードビジネス専攻担当職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各種講習会・各種イベント等への参加を行い、各自の知識・技術の向上を図る。									
使用教材	Airレジ(アプリケーションソフトウェア)・学習用テキスト									
成績評価	方法	知識（４０点）			技能・技術（４０点）		出席点（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	プロジェクト活動に関する知識習得の状況や理解度を評価する。 各種イベント等で習得される知識などを評価する。			専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない実習態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
月	内 容						時間	備 考		
7月	学生出資会社活動 (経理、企画、営業活動に関する実践) 販売実習（イベント等への参加） 校外研修（LFP関連活動への参加） プロジェクト学習に関する時間外活動等 ※LFP…ローカルフードプロジェクト						15			
8月							15			
9月							15			
10月							20			
11月							20			
12月							20			
1月							20			
2月							15			
3月							10			
授業時間外に必要な学修	プロジェクト研究に関する校外での調査研究他									
再試験及び補習対象の実施基準	実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	360	食品製造(理論)		学科名	フードビジネス専攻	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	農産物、畜産物の加工理論について演習を交えながら学ぶ。また、食品衛生、食品化学に関する基礎知識を身につける。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の加工理論や食品衛生、食品化学に関する基礎知識を習得する。								
使用教材	プリント、スライド								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義及び演習の終了後、評価試験を実施する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	加工室、加工器具類の取り扱い説明, 食品衛生に関する基礎知識 H A C C P の考えを導入した本校の加工室の衛生管理について 食品化学に関する実験器具類の説明及び演習						3		
2									
3									
4	食中毒、食品添加物について						2		
5									
6	野菜、果実の栄養、加工特性について 野菜、果実を使った加工品に関する基礎知識（トマトケチャップ、ジャム類等）						3		
7									
8									
9	穀類の栄養、加工特性について 穀類を使った加工品に関する基礎知識（パン類、焼き菓子等）						3		
10									
11									
12	畜産物の栄養、加工特性について 畜産物を使った加工品に関する基礎知識（くん製品） 乳の栄養、加工特性について 乳を使った加工品に関する基礎知識（アイスクリーム）						3		
13									
14									
15	講義の復習及びまとめ、宮崎県内の最新の話題及び技術について						1		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習								
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	361	食品化学Ⅰ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	12月～2月
科目の概要	食品実験に関する基礎知識を身につけ、食品の一般分析方法について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 教諭						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・実験器具の使い方に関する基礎知識を身につける。 ・食品分析に関する実験内容を理解し、レポートにまとめることができる。								
使用教材	講師準備資料、実験器具、試薬類								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後にレポートを提出し、内容により知識の習得状況を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	実験器具の使い方、レポートの書き方の説明					3			
2	食品の一般分析①－1 水分の定量								
3	食品の一般分析①－2 灰分の定量								
4	食品の一般分析② リンの定量					3			
5									
6									
7	食品の一般分析③ タンパク質の定量（ケルダール法①）					3			
8									
9									
10	食品の一般分析④ タンパク質の定量（ケルダール法②）					3			
11									
12									
13	食品の一般分析⑤ 脂質の定量（ソックスレー法）					3			
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	362	食品製造実習 I		学科名	フードビジネス専攻	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	7月～2月
科目の概要	農産物、畜産物の製造実習を通して、商品開発に関わる知識や技術を習得する。								
講師名	フードビジネス専攻担当職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	講師が準備する資料、食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（50点）		レポート（10点）		学習態度（減点）	
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造に関する知識の習得状況を判断し評価する。		農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造技術の習得状況を判断し評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減点する。	
回	内 容					時間	備 考		
1～2	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等)					2			
3～8	農大産の作物を使った製菓・製パンの製造実習					6	農大小麦、米粉使用		
9～14	農大産の果樹、野菜を使った農産加工品の製造実習					6	ジャム類、ケチャップ パウダー類		
15～22	農大産、県内産の畜産物を使った肉加工製品の製造実習					8	ハム、ベーコン他		
23～30	農大産生乳を使った乳加工品の製造実習					8	チーズ、ヨーグルト、 プリン等		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和 7 年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	363	フードビジネス I		学科名	フードビジネス 専攻	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	宮崎県のフードビジネス振興の取組を学ぶ。 フードビジネスに携わる人材として求められる知識を幅広く習得する。みやざき L F P の取組事例の調査学習を通して、地域の農畜産物を核とした異業種との連携手法等を理解する。								
講師名	外部講師 フードビジネス専攻職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	食品を介した事業を継続するための基礎を学ぶ。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	各講義後に提出するレポートの内容や評価試験の点数と内容の理解度により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度を A・B・C の3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県におけるフードビジネス振興の取組について ・フードビジネス振興構想、取組成果、施策の方向性						1		
2	事業資金の調達手段について（クラウドファンディング）						1		
3	原料調達の手法について						1		
4～9	みやざき L F P 取組事例調査 みやざきフードビジネス相談ステーションの取組事例について						6		
10	一般財団法人こゆ地域づくり推進機構（こゆ財団）の取組事例について						1		
11	原料調達から加工・製造、販売まで一連の行程を知る 商品規格書について、演習 商品の原価や売するためのコスト、儲けを考える						1		
12	専攻内の年間の原料調達、加工・製造、販売計画を整理						1		
13～14	卸売・商社を活用した販売方法を知る（BtoB） ・食品製造企業から見る卸売・商社の役割 ・模擬商談（専攻の商品を卸売へPRする場合を想定した演習）						2		
15	講義の復習及び微生物を活用した食品の最新の話題について						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準									

令和7年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	364	微生物活用 I		学科名	農学科 畜産学科 フード専攻	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義・実験	区分	履修	単位数	1 単位	時間数	15時間	開講時期	9 月～11月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの実験を通し、雑菌・殺菌・滅菌の重要性やメカニズムの基礎・基本を習得し、分析機器操作や微生物を活用した食品加工の基礎・歴史を学ぶ。								
講師名	農学科 バイオテクノロジー指導職員 阿久根 治喜						実務経験のある教員等による授業科目		○
到達目標	○微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ○実験を通し、施設設備の実際、培地の調整・作成、実験器具の扱い、無菌操作の基本を身につける。								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義・実験終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	実験器具・実験機器・設備類の操作方法 手指の洗浄、雑菌の可視化					1			
	培地の作成（MS培地・H培地・MT培地他）					2			
4～6	増殖培養 無菌操作の基本 カンショとオーキッド、観葉植物の継代培養					3			
7～9	微生物活用の実践（講義）					1			
	農大牛乳を使った乳酸飲料の製造及びぬか漬づくり					2			
10～12	実体顕微鏡・生物顕微鏡の使い方					1			
	植物の茎頂観察、糸状菌の顕微鏡観察と撮影の仕方					2			
13～15	実験で使用する器具の取り扱い方法					2			
	講義の復習及び微生物を活用した食品の最新の話題について					1			
授業時間外に必要な学修	○実験が主の授業であることから、全てを受講する事を基本とする。（公欠・病欠は除く） ○講義資料の復習と保管に取り組む。（資料：講師準備） ○農場現場での汚れを持ち込まない清潔な服装で実験に臨む。（白衣着用） 場所：生物工学実験室								
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								